

医療情報部

1 構成員

	平成20年3月31日現在
教授	1人
准教授	1人
講師（うち病院籍）	0人（0人）
助教（うち病院籍）	0人（0人）
助手（うち病院籍）	0人（0人）
特任教員（特任教授，特任准教授，特任助教を含む）	0人
医員	1人
研修医	0人
特任研究員	0人
大学院学生（うち他講座から）	0人（0人）
研究生	2人
外国人客員研究員	0人
技術職員（教務職員を含む）	0人
その他（技術補佐員等）	1人
合 計	6人

2 教員の異動状況

木村 通男（教授）（H8.10.1～現職）

谷 重喜（准教授）（H9.6.1～H19.3.31 助教授; 19.4.1～現職）

3 研究業績

数字は小数2位まで。

	平成19年度
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	3編（3編）
そのインパクトファクターの合計	0
(2) 論文形式のプロシーディングズ数	12編
(3) 総説数（うち邦文のもの）	8編（8編）
そのインパクトファクターの合計	0
(4) 著書数（うち邦文のもの）	0編（0編）
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	0編（0編）
そのインパクトファクターの合計	0

(1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 木村通男: 医療情報システムの相互運用性(3) データ形式 - HL7, HL7 CDA, DICOMで医療情

報システムの標準化 Interoperability of healthcare information system 3: Data format, 医学のあゆみ, 222(2), 147-154, 7.14. 2007.

2. 木村通男: 電子診療データCD - 患者の求めに応じて発行する診療情報 Standardized patient data CD for patients towards transparency of medical practice, 医学のあゆみ, 222(10), 833-838, 9.8. 2007.
3. 木村通男: 医療情報の国際標準規格HL7: その意義, 解決される問題点 HL7, an international medical information standard: its objects and problems solved, 情報管理, 50(5), 258-265, 2007.

インパクトファクターの小計 [0.00]

(2) 論文形式のプロシーディングズ

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 木村通男, 谷重喜, 作佐部太也, 渡辺浩: 浜松医大の新システム: 標準化の効用, 第2回日本医療情報学会中部支部会学術集会抄録集, 8, 2007.
2. 木村通男: IHE Overview - 画像システム連携から病院間連携へ, 医療情報学, 第27回医療情報学連合大会論文集 27-Suppl: 3-5, 2007.
3. 木村通男: 標準化のモデル紹介: 静岡県でのSS-MIX (厚生労働省標準的情報交換推進事業) を用いた糖尿病情報収集, 医療情報学, 第27回医療情報学連合大会論文集 27-Suppl: 52-55, 2007.
4. 木村通男, 小林利彦, 村田晃一郎, 宮原勅治, 秋山昌範: 病院におけるマネジメントと情報, 医療情報学, 第27回医療情報学連合大会論文集 27-Suppl: 235-236, 2007.
5. 渡辺浩, 谷重喜, 木村通男: PACSの一部フィルムレス化に伴う病院内の取り組み, 医療情報学, 第27回医療情報学連合大会論文集 27-Suppl: 384-385, 2007.
6. 谷重喜, 木村通男: 病院情報システムの堅牢化に関する研究, 医療情報学, 第27回医療情報学連合大会論文集 27-Suppl: 490-491, 2007.
7. 木村通男: 電子診療データCDの発行について, CyberRad2007, 第66回日本医学放射線学会学術集会抄録集S382, 2007.
8. 木村通男: 「HL7 CDA ベースの厚生労働省電子的診療情報交換事業 (SS-MIX)」, 平成19年度大学病院情報マネジメント部門連絡会議抄録集, 20, 2007.
9. 木村通男: 「病院情報システム・電子カルテからデータは出るか?」, 平成19年度大学病院情報マネジメント部門連絡会議抄録集, 28, 2007.
10. 渡辺浩, 谷重喜, 木村通男: 静岡県版電子カルテ その後の展開 SSMIXとアーカイブビューワ, 平成19年度大学病院情報マネジメント部門連絡会議抄録集, 146-149, 2007.

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの

1. 安藤裕, 向井まさみ, 谷川琢海, 小林暁, 中島隆: CCOWを用いたEUA/PSA機能の実装 - 情報システムの安全性向上を目指して -, 医療情報学, 第27回医療情報学連合大会論文集 27-Suppl: 14-16, 2007.
2. 江本豊, 安藤裕, 奥田保男, 原瀬正敏, 細羽実, 中島隆, 近藤博史, 菊池勉, 坂本博: IHE放

(3) 総 説

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 木村通男, 城崎俊典: 医療情報の標準化・電子紹介状と患者への情報提供 - 静岡県から全国へ・静岡県版電子カルテの概要・先駆けて導入された袋井市民病院の取り組み, 日本病院会雑誌, 54(5), 38(602)-58(622), 2007.
2. 木村通男: 電子カルテ2008年問題について 迫り来るリプレースでの問題と対処, 月刊新医療, 34(7), 92-95, 2007.
3. 木村通男: 電子診療データCD - 患者から見た医療の透明性, 映像情報Medical, 39(9), 802-805, 2007.
4. 谷 重喜: IT化による病院経営効率化の実践 システム化への具体的な期待を中心に, 月刊新医療, 34(11), 109-113, 2007.
5. 木村通男: 患者に渡すCD IHE PDI や厚生労働省電子的情報交換推進事業(SS-MIX), 病院, 66(12), 1026(46)-1031(51), 2007.
6. 木村通男: 失敗しない医療情報システムのポイント, 日経メディカル12(481), 223, 226, 228. 66(12), 1026(46)-1031(51), 2007.
7. 木村通男: 健康情報を管理するのは医療機関か国民か?, 医療ITシンポジウム - 地域医療情報連携・米国RHIOに関する国際シンポジウム -, プログラム集, 12-11-12-12, 2007.
8. 木村通男: リハビリテーションと電子カルテがもたらす医療連携, 日本リハビリテーション医学会ニュース リハニュースNO. 36, 1-6, 2008.

インパクトファクターの小計 [0.00]

4 特許等の出願状況

	平成19年度
特許取得数 (出願中含む)	0件

5 医学研究費取得状況

	平成19年度
(1) 文部科学省科学研究費	0件 (0万円)
(2) 厚生科学研究費	1件 (500万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0件 (0万円)
(4) 財団助成金	0件 (0万円)
(5) 受託研究または共同研究	0件 (0万円)
(6) 奨学寄附金その他 (民間より)	1件 (300万円)

(2) 厚生科学研究費

木村通男 (代表者) 医療安全・医療技術評価研究事業「標準的電子カルテ基盤上での医療安全の実現と評価に関する研究」500万円 (継続)

7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	3件	6件
(2) シンポジウム発表数	5件	2件
(3) 学会座長回数	2件	5件
(4) 学会開催回数	0件	0件
(5) 学会役員等回数	2件	6件
(6) 一般演題発表数	0件	

(1) 国際学会等開催・参加

1) 国際学会・会議等の開催

Kimura M.: Organizing Committee HIMSS AsiaPac 07, Singapore, May 15~17, 2007. 約800名

2) 国際学会・会議等における基調講演・招待講演

Kimura M.: Standards: HIT Interoperability, HIMSS AiaPac07, Singapore, May 16, 2007.

Kimura M.: The strategy of promoting standardizations of healthcare informatics in Japan and the experience of integrating the Electronic Medical Records and PACS via HL7 standardizations, The 6th Asia-Pacific HL7 Conference on Healthcare Information Standards, Taipei, Taiwan, June 21, 2007.

Kimura M.: Personal Health Records in Japan, The International Workshop on u-Health and interoperable personal health, Daegu, Korea, July 10, 2007.

3) 国際学会・会議等でのシンポジウム発表

Kimura M.: 健康情報を管理するのは医療機関か国民か?, Japan Healthcare IT Initiative Symposium, Tokyo, Japan, June 26, 2007.

Kimura M., K.Heitmen, Y. Kim, K. O'Donnell: Standards Enable and Empower Interoperable EHR, MEDINFO2007, Brisbane, Australia, August 23, 2007.

Kimura M.: SS-MIX : An Initiative for Promoting Healthcare Data Exchange by Japanese Ministry, International HL7 Interoperability Conference, Auckland, Newzeland, September 1, 2007.

Kimura M.: EMR in Japan ~ How and What Data Come out of Them?, CDISC 2007 Internaitonal Interchange, North Bethesda, USA, October 2, 2007.

Kimura M.: IHE in Japan, RSNA IHE Asia-Oseania Meetng., Chicago, USA, November 27, 2007.

4) 国際学会・会議等での座長

Kimura M.: HIMSS AsiaPac07, Singapore, May 16, 2007.

Kimura M.., MEDINFO2007, Brisbane, Australia, August 23, 2007.

(2) 国内学会の開催・参加

2) 学会における特別講演・招待講演

木村通男: 医療情報システムの光と影, 日本ラジオロジー協会CyberRad2007, チュートリアル講演, 4月15日, 2007. 横浜市.

谷重喜: 四肢体幹の運動評価システム, メディカルイノベーションフォーラム2007 HAMAMATSU, 11月20日, 2007. 浜松市.

木村通男: 電子カルテの可能性と限界について, 鹿児島県医師会ITフェア, 招待講演, 11月20日, 2007. 鹿児島市.

木村通男, 渡辺浩: 安全性・副作用検索DB 当院での活用例～複雑な検索を可能にした高速臨床研究データベース, 第27回医療情報学連合大会 (第8回日本医療情報学会学術大会) スイーツセミナー, 招待講演, 11月24日, 2007. 神戸市.

木村通男: 電子カルテからデータは出るか? - 臨床データの電子的伝達の標準化の最新動向 -, 日本病院薬剤師会EDCセミナー, 招待講演, 12月8日, 2007. 東京都

木村通男: 「君子和而不同, 小人同而不和」 - DICOM, HL7, IHEからHERへとつながる, 診療情報連携 -, 第16回兵庫医療情報研究会 招待講演, 2月16日, 2008. 神戸市.

3) シンポジウム発表

木村通男: IHE概要, 第27回医療情報学連合大会 (第8回日本医療情報学会学術大会) シンポジウム「IHEのあゆみと最新の成果」一部門システム連携から電子カルテ・施設間連携へ, 11月23日, 2007. 神戸市.

木村通男: 標準化のモデル紹介: 静岡県でのSS-MIX (厚生労働省標準的情報交換推進事業) を用いた糖尿病情報収集, 第27回医療情報学連合大会 (第8回日本医療情報学会学術大会) シンポジウム糖尿病診療の電子化はどうあるべきか? - 糖尿病専門医からの提言 -, 11月23日, 2007. 神戸市.

4) 座長をした学会名

木村通男: 第27回日本医学会総会企画展示EXPO2007, 4月4日, 2007. 大阪市.

木村通男: 第2回日本医療情報学会中部支部会学術集会, 6月2日, 岡崎市.

木村通男: 第11回日本医療情報学会春季学術大会 (シンポジウム2007), 6月15日, 2007. 大阪市.

木村通男: 第27回医療情報学連合大会 (第8回医療情報学会学術大会), 11月23日~25日, 2007. 神戸市.

木村通男: 平成19年度大学病院情報マネジメント部門連絡会議, 1月24日~25日, 2007. 高松市.

(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

Kimura M.: Vice President Board Member, Asia Pacific Association of Medical Informatics

Kimura M.: Chairman, International Medical Informatics Association (IMIA) Working Group

16 (Standardization)

木村通男 日本医療情報学会 副会長, 国際委員長, 標準化委員長

木村通男 日本医療情報学会中部支部会 世話人

木村通男 日本医学放射線学会 電子情報委員会委員

木村通男 日本医学放射線学会中部地方会 世話人

木村通男 日本IHE協会 運営委員会, 国際委員会, ITI-PLUS委員会 委員

木村通男 日本HL7協会 副議長, 技術委員長

8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数（レフリース数は除く）	0件	2件

(2) 外国の学術雑誌の編集

Methods of Information in Medicine, Schattauer, Germany, Editorial Board, PubMed/MEDLINE
登録あり, インパクトファクター: 1.451

International Journal of medical Informatics, Elsevier, US, Editorial Board, PubMed/MEDLINE
登録あり, インパクトファクター: 1.579

(3) 国内外の英文雑誌のレフリース

6回: Methods of Information in Medicine (ドイツ)

2回: International Journal of Medical Informatics (アイルランド)

9 共同研究の実施状況

	平成19年度
(1) 国際共同研究	0件
(2) 国内共同研究	0件
(3) 学内共同研究	0件

10 産学共同研究

	平成19年度
産学共同研究	0件

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. 厚生労働省標準的医療情報交換推進事業SS-MIXの指導

昨年度まで静岡県 の要請により静岡県版電子カルテシステム開発事業 (<http://www.mi.hama-med.ac.jp/emr/>) に技術検討委員長として参画し, 静岡県内において, 病診, 病病連携の推進, 患者の希望に基づくデータの提供, 後述のオブジェクト指向データベース (本講座にて開発) による臨床情報についての柔軟な検索, 一部の情報種において, ペーパーレス電子カルテの実現を可能とした。平成20年には, 県内7箇所の病院で導入されている。この事業の一部は, 厚生労働省

の標準的医療情報連携推進事業（SS-MIX）に採用され、事業の総括をおこなっている。成果物は静岡県のみならず、千葉県、福岡県、山形県で導入が進んでいる。

（木村通男，谷重喜，渡辺浩）

2. 最速なレスポンスの病院情報システム開発

オーダーエントリシステム（処方，検査依頼など）については，日本における普及率は，世界一を誇り，扱うデータの種類，量も世界最大である。一方，そのためにシステムのレスポンスが遅くなるのが散見されるが，大型計算機のパラレルアーキテクチャの採用，中間サーバによる負荷分散などを通じて，全処方内容，全検査結果，全画像の永久保存を保証しつつ非常に速いレスポンスの達成を可能とした。本院情報システムに関して，平成19年4月に新しいシステムへ更新し，平成20年3月現在，NEC社製の中では日本有数のレスポンスを示すことを確認しつづけている。

（木村通男）

3. 診療情報のオブジェクトデータベース化

診療情報の蓄積は，単に保存するだけではそこから有意義なデータは取り出せない。診療情報データを多角度で分析することが，データマイニング技術であるが，この基礎となる情報を構造として，オブジェクトデータベース化することにより，極めて柔軟な検索を可能とし，3年前より提供を開始，現在，本格運用している。なお，このデータベースは，1. の静岡県版電子カルテシステムの開発の雛形として採用され，すでに県内6箇所，県外2箇所の病院で利用されている。

（木村通男）

13 この期間中の特筆すべき業績，新技術の開発

1. 静岡県版電子カルテシステムの実装，国事業への展開

静岡県版電子カルテシステムが，県内の7箇所の施設で実装された。この開発事業は，徹底した標準化が意識されており，平成16年，木村が委員を務めた厚生労働省標準的電子カルテ推進委員会の最終報告書で推奨されている規格に準拠している。更に，この事業は，平成18年度の厚生労働省標準的電子カルテ情報交換システム事業として，全国で利用されることとなり，千葉県，福岡県，山形県で実装が進んでいる。

14 研究の独創性，国際性，継続性，応用性

1. 臨床データベースの薬剤安全への応用

先述した臨床データベースの機能を拡充し，特定の注意すべき薬剤の処方が特定の状態の患者に投与された時，薬剤部へメールによる自動配信するシステムを開発した。具体的には，白血球数が低下した患者に抗癌剤を処方した場合などである。このようなデータベースは，他に例が無く，薬剤安全への寄与が期待される。